

タケダ・ウェルビーイング・プログラム 2015 成果報告レポート

助成番号 15-1-1

プロジェクト名 長期的に医療的ケアの必要な子どもたちと家族の
在宅生活を支える人材育成プロジェクト
団体名 認定NPO 法人 NEXTEP
所在地 熊本県
助成額 46万円
設立年 2000年
URL <http://nextep-k.com>



（団体について）

認定NPO 法人 NEXTEP（熊本県合志市）は、「笑顔あふれる地域社会づくり」を目指し、「講演会等を通じた社会課題解決の為にネットワークづくり」「不登校児のサポート」や、「重い障害や難病の子どもたちの在宅生活支援」を事業として展開しています。

「子どもたちが家で、家族と一緒に暮らす」

当たり前と思われる「家族と一緒に暮らすこと」。このことすら難しいと言われる重い障害や医療機器に囲まれた子どもたち。子どもたち自身、そして看護と介護と育児をいきなり突きつけられる両親も含め、私たち NEXTEP は直接的な医療職や福祉職による支援を行う一方、一般企業や地域住民に向け、「長期に医療的ケアの必要な子どもたちが私たちの街にいて、手を差し伸べる人たちを待っています。」と発信し、支援者を増やしていくことにも取り組んでいます。

（助成による活動と成果）

今回の助成プロジェクト（以下：本助成）で取り組むのは、「職種も年齢も問わず、長期に医療的ケアの必要な子どもたちの子育てサポーターを1人でも多く作ること」を目指して、学生のインターン研修や見学を受け入れ、将来的に地域で彼らを支えることのできる若手人材を育成する研修プログラムです。

・プログラム

研修の実施場所は、障害児通所支援事業所ボンボン。主な参加対象は、熊本の大学や専門学校に通う学生で、ネクステップの学生ボランティアチームである「ドリカムキッズ」のメンバーを中心に募集活動を行いました。1日のみで実施する「見学研修」と、3日以上継続的に参加してもらう「インターン研修」の2種類の研修を、夏休み等の長期休暇に合わせて実施しました。

プログラムとしては、まず参加者に座学による事前研修を実施。「障害をどう考えるか」「社会的背景」「NEXTEPの取り組み内容」といった内容を学習した上で、実際の現場に入ってもらいました。さらに現場においても、「安全面への配慮」といった基本的な知識や、「子どもたちの個性に合わせての関わり」など、参加学生が学びを深められるよう必要な指導をしながら、一緒に活動しました。

・成果 ～参加学生の変化について～

本助成期間では、計 17 名の学生に、のべ 345 時間の研修を行うことができました。特に、継続的な参加をしてくれたインターン研修生のみなさんが、日々新たな気づきや発見を得て、学びを深めていく姿は印象的でした。また、参加学生へのアンケート及びヒアリングから、下記のような変化・成長が見られました。

① 重い障害をもつ子どもたちへの印象の変化（参加学生全般）

・子どもたちの現場が明るく、楽しいものであることを実感を持って理解。重い障害をもつ子どもたちとの関わりを、前向きな印象として捉え直す機会となった。特に、学生と子どもの間に個人の間人関係が生まれており、このことは参加学生が生涯にわたって障害のある方とどう接するかについて良い影響を与えます。

② 子どもたちとの関わりに必要な要素の理解（インターン研修参加学生）

・「信頼関係」「個性に合わせた関わり」「安全面への配慮」「多職種連携」などへの理解が深まったと考えられます。

③ 子どもたちに関わる仕事に進むきっかけとなる経験に（一部インターン研修参加学生）

・医学部に通う学生から小児科医を目指すことを決めたとの声がありました。

（残された課題、新たな課題）

今回のインターン研修に参加した学生が在籍している学校が、熊本大学、熊本保健科学大学の2校に偏っていました。幅広い大学や専門学校からの参加があるよう、働きかけを工夫していくことが必要です。

また、今回参加した学生もいずれ卒業し、OB、OG としてのネットワークが形成されていきます。長期的にOB、OG との交流の機会を持ち、このネットワークが可能な限り生かされるよう環境づくりを行うことは新たな課題と考えます。

（活動の背景・社会的課題）（団体からのメッセージ）

長期に医療的ケアの必要な子どもたちの育児には、医師や看護師、福祉職といった、専門職による支えだけでなく、必ず地域住民や行政、企業等の協力と支えが必要です。

長期に医療的ケアの必要な子どもたちの存在をみんなが知っていて、気に掛け、たくさんの人の関わりの中でその子を中心として環境を改善していく。そんな形で、弱い立場にある人を大切にしていく過程は、自然と関わる人の心を温かくしていく事にも繋がります。そしてそれは、地域に暮らすみんなにとって暮らしやすい社会を作っていくことと、イコールではないかと思えます。

笑顔溢れる地域社会づくりに貢献できるよう、これからも継続的に取り組みを続けていきたいと考えています。

以上